

にぎわいづくりと景観の関係

にぎわいづくりによるコミュニケーションの再生

昔は、人と人が直接触れ合う機会が日常にありました。例えば、買い物の際は、特定の日に道に露店が集まり開かれる「^{いちば}市場」から、常設の店舗として固定化がすすみ「商店街」になりました。その後、より多くの店舗からなる「ショッピングセンター」が増え、建物の中で行われるようになりました。今では、「インターネットショッピング」が頻繁に行われ、人と触れ合う場面がまちなかで少なくなっています。マルシェなどでにぎわいをつくりだすことは、単なる商品のやりとりだけではなく、人と人とのコミュニケーション、交流の機会を再生するという意味もあるのです。

豊かなつながりからいきいきとした景観へ

通勤・通学でさまざまな人が行き交う駅や、憩いの場である公園、公共空間等でのにぎわいを創出し、継続すれば、多様な人との新たな交流が生まれ広がります。刈谷のまちなかで交流を体験することで、同じまちに暮らす人たちのつながりが感じられるようになり、このまちに住んでいてよかったという実感をもたらします。このような豊かなつながりが広がれば、まちが活気づきます。こうしたまちづくりが、良好な景観の実現につながっていくのです。

にぎわいの歴史

かつて刈谷城（現亀城公園）の城下町だった一帯が、にぎわいの中心でした。

1914（大正3）年に、現在の高浜市や碧南市で生産された瓦や土管などを輸送するため、三河鉄道が開業し、城下町として栄えた地区の近くに刈谷町駅（現名鉄刈谷市駅）が設置されました。この駅の設置が契機となって、城下町から刈谷町駅の一帯に大規模な商店街が形成されていきました。

このときすでに東海道本線刈谷駅（現JR刈谷駅）が開業していましたが、その周辺は閑散としていました。当時の刈谷駅の100m南には、三河鉄道の刈谷新駅が設置されており、その後1927（昭和2）年に刈谷新駅が刈谷駅に移設され共同駅となったことで、交通結節点となりました。

これにより刈谷駅周辺に産業集積が図られ、駅前広場の整備や土地区画整理事業などもあいまって、にぎわいの中心が刈谷駅周辺まで広がりました。



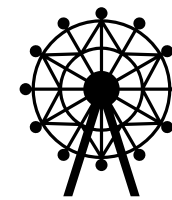
刈谷城および城下町（復元イメージCG）
出典：DVD「甦る刈谷城」（企画著作/刈谷市・刈谷市教育委員会、2013年）



大名行列の様子（昭和38年）



年の瀬の銀座通りの人だかり（昭和42年）



2025.Mar

かりや 景観レポート

Kariya
Landscape
Report

Vol.
32

Kariya Landscape Report



「にぎわいづくり」を景観から読み解く

にぎわっている場所は、心地よい空間で、五感を使って楽しむ魅力的な体験ができます。集まった人たちが出会い、交流し、ワクワク感が周りに広がって、まちが活気づきます。このような、楽しむ人の姿やいきいきとしたまちの様子もまた、景観の一面です。

刈谷市の公共空間では、今、にぎわいがつくりだされています。人が集う、いきいきとしたまちの様子をみていきましょう。

景観とは

建物や自然などの眺めであり、目だけでなく五感を通して感じられることや、これらによって呼び起こされる心象風景も含めた、私たちがその場から感じ取るものの全体像です。

まちには長い年月を経て、地形、歴史、土地利用、暮らしなどが培われてきていて、これらの要素が組み合わさってその地域固有の景観をかたちづいています。これらひとつひとつの要素をひも解きながら、その地域らしい景観を再発見していきましょう。



人でにぎあう、いきいきとしたまちへ

心地よいと感じる場所には、自然と人が集まります。

普段は通り過ぎるだけの駅前の広場で、マルシェなどのイベントがあれば、それがきっかけとなって買ったり食べたり、思い思いの過ごし方ができるようになります。

そのような過ごし方（アクティビティ）にはどのようなものがあり、どのようにまちを活気づかせているのでしょうか？

人が集う場の創出

act 1 アクティビティを生じさせる

駅前や公園、広場などでのイベントの開催、ストリートファニチャーの設置等により、人が集まり、心地よい空間が生まれる。

act 2 多くの人を巻き込む

人が集まり楽しんでいる様子は、通りかかる人を惹きつけ、参加を促す。このように人を巻き込めば、さらなる交流が生じ、一層人が集まる。

act 3 「いつもにぎわっている」場所へ

さまざまなアクティビティにより、「この場所はいつも人の集まる心地よい場所だ、何かできる場所だ」と認識され、ポテンシャルの高い魅力的な場所となる。

広場でのアクティビティのいろいろ Activities!

くつろぐ

公園などに置かれたファニチャーは、太陽の日差しや道路からの視線を遮り、心地よい空間を生み出します。



大手公園



共に食べる

誰かと一緒に食べたり飲んだりすることは、記憶に残る大切な体験です。公共空間という開かれた場所での体験は、非日常的で格別なものになります。



遊びが生まれる

きっかけさえあれば、大人も子どもも遊びます。まちなかで夢中になる人の姿は新鮮であり、微笑ましいものです。



刈谷駅北地区広場



目や耳を楽しませる

まちのなかでの演奏やイルミネーションは、その場所を光や音で包み込み、通りかかる人を楽しませます。



こだわりの逸品を見つける

新たな店の発掘や、お店がこだわったもの・そこでしか手に入らないものとの出会いが生まれます。



刈谷駅南北連絡通路

